

2019 夏が好き！本が好き！！



令和元年7月8日
秋草学園高等学校 図書館

恒例の「夏が好き！本が好き！」の季節がやってきました。今年の夏も先生方から、おすすめ本がたくさん集まりました。紹介文からは、先生方の本に対する思いが伝わってきて、どの本にも興味が湧いてきます。1冊をじっくり読むのもよし、何冊もの本に挑戦してみるのもよし、それぞれのペースで読書の夏を楽しんでください。また、これまで関わりの少なかった先生とも、おすすめ本をきっかけにして会話を弾ませてもらいたいです。紹介していただいた本は、図書館にて展示中です。夏の長期貸出が始まっていますので、どんどん借りていってください。貸出冊数は5冊、返却日は9月3日(火)です。

小久保校長先生のおすすめは…

①141-ト 『思考力の方法 聴く力編』 外山 滋比古 || 著 さくら舎

知性とは「聴く」「話す」「読む」「書く」の4つがすべて揃って養われます。「読む」「書く」が重視されるなか、「聴く力」=人の話をよく聴くことから「思考力」が深まっていく、思考力の方法としての「聴く力」について考える一冊です。日本人の耳は本当に大事なことを聴いて頭にいれる力が弱っているのか？考えて欲しいと思います

②131-ア 『自省録』 マルクス・アウレリウス || 著 神谷美恵子 || 訳 岩波書店

この書物を書いたマルクス・アウレリウスは古代ローマ帝国の皇帝で五賢帝の一人です。『自省録』は彼が残した手記であり、誰かにみせるために書いたものではありません。皇帝としての多忙な職務のかたわら自分の心を穏やかにするために書かれた思索の記録とも言えます。本文は全12章からなっていて、それぞれの章は数行程度の文章で構成されているので比較的読みやすいと思います。

③289.1-キ 『北野家の躰と家族愛』 北野 大 || 著 第三企画

現在、秋草学園短期大学の学長である北野大先生が書かれた本です。北野先生の経験をもとに書かれているので非常に親近感の溢れたテンポのある文章で構成されています。また、お母様の強い愛情と信念を感じる本でもあります。「苦労は買ってでもするもの」「実るほど頭を垂れる稲穂かな」等、忘れてはいけない大切な教えが沢山載っています。特に「人間として人の悲しみは共有できても、喜びを共有することは難しい」「良かったね」と素直に言えるには心の豊かさが重要であるという言葉の意味を考えて欲しいと思います。

丸山教頭先生のおすすめは…

501-サ 『世界史を変えた新素材』 佐藤 健太郎 || 著 新潮社

ラジオから聞こえてきたあまり聞きなれない「新素材」という言葉に惹かれて、本書を購入。読み始めると驚かされることばかり。人類にとって重要な素材(材料)としての金・陶磁器・鉄・紙・絹などを取り上げて解説した本。あまり詳しいことが書いてあるわけではないけれどなるほどと納得でき、面白く、あっさりと読める本です。世界はいろいろな素材の発明によって成り立っていることが分かり、また世界の歴史が影響をうけてきた様子を知ることができる本です。ぜひ、一読してください。

浅見先生のおすすめは…

289.1-シ 『渋沢栄一「日本近代資本主義の父」の生涯』 今井 博昭 || 著 幼冬舎

渋沢栄一を知っていますか？埼玉県深谷市のヒーローです。今度発行される新1万円札の人物です。さらに、日本の高級住宅街、【田園調布】の設計に携わった人物にもなっています。

稲本先生のおすすめは…

①913.6-ア 『火のないところに煙は』 芦沢 央 || 著 新潮社

実は推薦本として紹介してよいものか…正直迷いました。それくらい最恐です。どうにかして猛暑から抜け出したいときに、おすすめです。ただし、夜読むのはやめた方がよいと思いますが。

②913.6-サ 『アンと青春』 坂木 司 || 著 光文社

冷房の効いている場所にすぎで、なんとなく体がだるいとき、なんだかイヤな事があって気持ちが疲れてしまったとき…。きっと気持ちが少しだけ前に向くような気がします。



伊久美先生のおすすめは…

361-カ 『友だち幻想』 菅野 仁 || 著 筑摩書房

社会学者 菅野仁さんが「友だち」について書いた本。「なぜいけない人の悪口を言うのか」「気に入らない人も並存する作法」など、目次には気になる項目ばかりだ。

本文中では、「自分のことを100%受け入れてくれる人は存在しない」「人はどんなに親しくなっても他者なのだ」と言ったことが繰り返し語られる。これだけ聞くと冷たい考え方だと思うかもしれないが、最後まで読めばきっと納得するはずである。友人関係に悩んでいる人はもちろん、友だちについて考えたこともないという人にも読んでもらいたい。

今井先生のおすすめは…

404-ヨ 『世界は「ゆらぎ」でできている』 吉田 たかよし || 著 光文社

この世にある物質は全て揺らいでいます。紙もシャーペンシルも、そしてあなたが座っているイスも全て揺らいでいます。ただ、ゆらぎが小さくて私たちには感じることはできません。しかし、電子1個、原子1個のレベルでは大きな動きです。例えば酸素と水素が反応して私たちの命の源である「水」ができますが、お互いの動きがあるから反応するわけで動きがなければ反応しません。そして、この研究課程が量子力学です…。

内容は高度ですが、とてもわかりやすくどんどん引き込まれていきます。クーラーの効いた部屋で、ゆっくり読んでほしい一冊です。

大畠先生のおすすめは…

159-ミ 『人生はニャンとかなる!』 水野 敬也/長沼 直樹 || 著 文響社

猫好きの人にはぜひお勧めします!! 68の猫たちがスタート・仕事・冒険・リラックス・習慣・コミュニケーション・希望の7つのカテゴリーの「大切なこと」を伝えてくれます。猫の写真だけ見るのもOK! 気になる猫やキーワードを深く読んでいくのも良いと思います。

とても気軽に読める本であり、毎日のヒントを見つけることもできます。

大庫先生のおすすめは…

913.6-ア 『鼻』 芥川 龍之介 著 角川書店/新潮社

芥川龍之介は高校の現代文の授業で取り上げられる代表的な作家です。高校一年生では『羅生門』を学びます。芥川龍之介の『鼻』は、芥川龍之介の代表作であり、芥川龍之介は作家として文豪夏目漱石に激賞され文壇にデビューするきっかけとなった作品です。一年生で芥川龍之介の『羅生門』を学んでいる機会にぜひ読んでほしい本の一つです。

鹿島先生のおすすめは…

933-ジ 『チーズはどこへ消えた』 スペンサー・ジョンソン 著 抹桑社

人間は新しい物ものに対して恐怖心を抱いてしまう生き物です。だが、恐怖心と付き合いながら、前に進まければ成長することはできません。1歩勇気を出したい人におすすめの一冊です。

京極先生のおすすめは…

407-ゴ 『子どもにウケる科学手品77』 後藤 道夫 著 講談社

タイトルにもあるように、子供にはもちろんのこと、大人でもウケるような科学手品が多く紹介されています！準備も簡単な手品が多く（とても大事）、将来、子供と接する仕事をしようと思ってる人は、1つのネタとして参考にするといいかもしれませんね！

鈴木信滉先生のおすすめ本は…

780-キ 『体幹力を上げるコアトレーニング』 木場 克己 著 成美堂出版

あのサッカー日本代表の長友選手も実践していることで有名な体幹トレーニングの指導本。
私が鬼ごっこ日本代表選手として大学生のときから活動できているのもこのトレーニングのおかげです。みなさんも、体幹トレーニングでこの夏を乗り切りましょう。

下山先生のおすすめは…

B913.3-ム 『ビギナーズ・クラシックス 源氏物語』 角川書店 編 角川学芸出版

「源氏物語」という作品名は古典の授業でも取り上げられることがあり、誰もが一度は聞いたことがあると思います。主人公の光源氏を中心とし、それを取り巻く女性たちとの愛や苦悩、平安貴族の生活や、政権争い、複雑な人間関係などが描かれており、紫式部はこの作品で『人間の持つ感情のすべてを書ききった。』とまで言われた作品です。

しかし、1000年以上前に書かれたこの作品を読もうと思ってもとても長く、現代と異なる文化や風習を理解しながら読み進めることは大変で、なかなかとっつきにくい部分があると思います。

そんな時にお薦めしたい本が今回紹介する「ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 源氏物語」です。本書は全部で54帖（54巻）ある「源氏物語」を巻ごとに要約し、作品を読むにあたっての豆知識や人物相関図、写真、イラストなど初めて作品に触れる際の理解を助けてくれます。さらにこの本は、ただ訳が載っているだけではなく、古典の原文のよさも味わうことができ、「源氏物語」を読み始める入門書としては一番読みやすい本だと思います。

みなさんが「源氏物語」という日本が世界に誇る超大作を読むきっかけになってくれると嬉しいです！



白石先生のおすすめは…

210.3-サ 『古代史講義 邪馬台国から平安時代まで』 佐藤 信 著 ちくま新書

十五人の日本古代史の研究者が、古代史の最新の研究を踏まえ、一般の読者にわかりやすくまとめた日本古代史の入門書です。一通り日本史を学んだ復習がてら、あるいは古代史を概観してみたい方にもオススメです。更に詳しく学びたい人のために、各章ごとに参考文献も載っており、とても親切に書かれています。

染谷凌平先生のおすすめは…

281-ニ 『さんねんな日本史偉人伝』 NHK『DJ日本史』制作班 協力 宝島社

歴史の偉人も人ですからさまざまな人がいます。この本は中でもさんねんな人生を歩んだ偉人を紹介しています。これが絶対とは言いませんが、多くの功績を残した人達の、人間味のある部分を見てみませんか？

関口先生のおすすめは…

913.6-カ 『そして旅にいる』 加藤 千恵 著 幻冬舎

様々な思いを抱えた人の旅の様子を書き出した短編集です。旅の様子とは言っても、その風景や行動によって旅をイメージするものではなく、旅にいる人の思い出や気持ち、願いなどを通して見たもので、どちらかと言えば心の中をのぞくようなものです。そこに描かれたものは決して日常を越えたものでなく誰にでも持ちえそうなものばかりです。その素晴らしさをぜひとも感じてみてください。



高橋貴与人先生のおすすめは…

159-ヨ 『17歳に贈る人生哲学』 葉 祥明 著 PHP 研究所

画家、絵本作家、詩人である葉先生が10代のために書き下ろしたメッセージブックです。「哲学」という言葉は、とても難しい響きですが、「生き方」や「アイデンティティ」という言葉に置き換えると、少し身近に感じるかもしれません。私たちが幸せに生きていくためには、どのような考え方を持てばよいのか、この本を読むことによってその考えが導きだせるかもしれません。

高橋舞先生のおすすめは…

913.3-イ 『恋する伊勢物語』 俵 万智 著 筑摩書房

平安貴族たちの恋愛は、今では考えられないほど何でもありで、はちゃめちやなものでしたが、そこには今と変わらないものも確かにありました。

「古文は少し苦手…」という人も、きっとこれなら面白いはずですよ。ぜひ読んでみてください。

高橋優美花先生のおすすめは…

913.6-キ 『魍魎の匣』 京極 夏彦 著 講談社

箱というのは不思議なもので、ただ存在するだけでも人の心理に何かしらの影響を与えるのです。(開けたらどうなるんだろう、中には何が入っているのだろう……)と知的好奇心(あるいは欲望)に唆された結果、大抵の結末は悲惨なものを迎えます。それは「パンドラの箱」の話もそうですし、「浦島太郎」もそうです。後者と同じくおとぎ話の「舌切り雀」なんかでは、欲張りなお婆さんが大きな籠を選んでしまったために、入っていた虫や蛇なんかに襲われます。このように、「箱」は物語の展開において重要な役割を果たすのです。

さて、題名の「魍魎 魍魎」とは簡潔にいうと妖怪のことです。「妖怪の箱」と称されるこの物語に登場するアイテムは、どのような働きかけをするのでしょうか。是非読んでみてください。授業で触れる文章よりかは少しばかり長いですが、夏休みという機会を使って読んでみるのもよいのではないかと思います。

田中先生のおすすめ本は…

291-A 『群馬のおきて』 群馬県地位向上委員会 編 アース・スターエンターテイメント

とにかく群馬のことがわかる本です。読んで笑ってください。

中村先生のおすすめは…

B376-サ 『下克上受験』 桜井 信一 著 産経新聞出版

両親は中卒。それでも娘は最難関中学を目指した！
キャッチフレーズにふさわしい、ご両親の受験への奮闘ぶり。メンツやプライド・恥ずかしさなんてかなぐり捨てた、わか子にすべてをささげた両親の娘への思い。どうぞお読みください。そして、^{おまかせ}遍く皆さんの親御さんも同じ気持ちであると思う。

長野先生のおすすめは…

514-モ 『プラスチックスープの海』 チャールズ・モア/カッサンドラ・フィリップ 著 NHK出版

ようやく世界的に問題視され始めたプラスチックごみによる海洋汚染。近い将来、プラスチックごみの総量は魚を上回り、海はプラごみに埋め尽くされるのか。便利で快適な生活を支えているはずのプラスチックが、地球環境をぶち壊しているとしたら…。もう、見て見ぬふりはできない！

原口直道先生のおすすめ本は…

915.6-ナ 『漱石日記』 夏目 漱石 著 岩波書店

夏目漱石の日記です。特に韓国で下痢ばかりしてるところが面白いです。

平田先生のおすすめは…

B933-ベ 『1ドルの価値/賢者の贈り物 他21編』 O.ヘンリー 著 光文社

10~15 ページほどで1つのお話が終わるので、本を読むのが苦手(嫌い)な人にもおすすめです！

福島先生のおすすめは…

141-ホ 『こころの知能指数「EQテスト」』 巖岩 奈々 著 ベストセラーズ

あなたは今、何を感じて、どんな気持ちでいますか？
学校や社会などの集団では、気持ちを抑え、感情を出さないようにトレーニングされがちです。自分の感情を無視し続けると、気づかないうちにため込んで、あるとき突然爆発したり、気分が滅入ったり、自分らしさが感じられなくなったりします。

この本は、本校の1年生の授業「総合的な探求の時間」で実施している「EQ診断テスト」でも紹介しているものです。この本を読むことで、授業で実施したこころの知能指数「EQテスト」で発見した「自分自身の特徴」を手がかりにしなが、自己認知力や共感力などの「EQ」を高めて、日頃の学校生活や将来の社会生活でよりよく生きる能力を高めるきっかけとすることができると思います。

「総合的な探求の時間」の発展的な学習として、読んでみて下さい。

堀内先生のおすすめは…

367-ス 『選ばれる女におなりなさい』 ラトナ・サリ・デヴィ・スカルノ 著 講談社

バラエティ番組で活躍中のデヴィ夫人ですが、元インドネシア大統領夫人だったのを知っていますか？どのようにチャンスをつかみ、“BIG LIFE”を実現したのか！？女性がこの世で幸せに生きるための極意が書かれています。『教養は大切です。みなさまご自身の道を切り開いてくれる武器になりますから』デヴィ夫人名言より

本多先生のおすすめは…

209-デ 『全世界史』 出口 治明 著 新潮社

歴史を「各国史」ではなく、たったひとつの歴史としてとらえて、全世界史と読めば歴史がもっとわかりやすく、もっと面白いことに、気づきます。ある国の出来事が、間接的に遠い他国の影響を受けていた事実を知ると、歴史の理解もさらにすすみます。夏休みの間にまとめて読むといいでしょう。

眞野先生のおすすめは…

913.6-A 『桐島、部活やめるってよ』 朝井 リョウ 著 集英社

少し前に話題になった作品ですね。最近の中高生に多く見られる“部活離れ”を主題に書かれた小説です。小説の構成の仕方も面白いので、普通の小説に読み慣れた人にもオススメです。映画と合わせて読むと、なお面白いと思います。

松永先生のおすすめは…

289.1-オ 『だから、あなたも生きぬいて』 大平 光代 著 講談社

著者は中学2年の時に、いじめを苦にして自殺を図る。その後、非行に走り、16歳にしてなんと極道の妻となる。しかし、そこから養父・大平浩三郎と出会って立ち直り、中卒の学歴を乗り越えて、「宅建」、「司法書士」に次々と合格、29歳の時には一発で「司法試験」にも合格する。そして、現在は非行少年の更生に努める弁護士として、活躍中。
そんな大平光代さんが自身の半生を描いた手記です。読んでみてください。



三ツ木先生のおすすめは…

783-タ 『ニュージールランドラグビーが教えてくれた「人間力」の高め方』 竹内 克 || 著
ベースボール・マガジン社

いよいよ2ヶ月後に迫ったラグビーワールドカップ。今回はアジアで初となる日本での開催です。優勝候補は過去3回の優勝を果たしたニュージールランド。ニュージールランドは老若男女誰もがラグビーを楽しむラグビー王国です。そのニュージールランドで25年間プレーヤーとして、またコーチとして楯円球を追い続けた筆者が語るコーチング術、そしてラグビーの精神。「なるほど！だからオールブラックスは強いのか！」と納得する一冊です。

ワールドカップ直前、ラグビーとは何か？を学んでほしい。とくに、指導者の方にオススメの一冊です。

宮本先生のおすすめは…

914.6-エ 『恋愛とは何か ー初めて人を愛する日のために』 遠藤 周作 || 著 角川書店

恋って何だろう？

愛って何だろう？

私は大学生の頃に読みましたが、「なるほど！」が沢山ある本です。少し古い本ですが、高校生のみなさんにもきっと届く多くの言葉があるはず。年齢によっても読んだ感想が違っても。私も久しぶりに読み返してみたくなりました。

守谷先生のおすすめは…

290.9-ス 『世界をたべよう！旅ごはん』 杉浦 さやか || 著 祥伝社

世界各国での思い出の味の記録。読んでいると行きたくなるんです、旅に！！

夏休みは遠出したいなあ。

結城先生のおすすめは…

933.6-セ 『ムーン・パレス』 ポール・オースター || 著 新潮社

先日、大きな赤い月が出ていて（ストロベリームーンというらしい）、凄い月だなあと驚いて、少ししてまた見上げるとすっかり空は暗くなっている、その時、少し違うけれど「一寸先は闇」という言葉が思い浮かんだ。この本を読みながら、そういう出来事を思い出していた。主人公はやや自分勝手なインテリ大学生で、彼の身にまさに思いもよらない出来事が次々降りかかる。作者は冒頭から、彼がホームレスになり餓死寸前まで行くが女の子に助けられ、やがて運命の老人に出会い出生の秘密を知る、と激しくネタバレらしをしている。にも拘わらず、この後どうなる！？と読まずにはいられない。（しかも読み終わった瞬間、ギャッと声が出た）。一寸先は闇を英語では“The future is a closed book”というが、人生は次の瞬間どう転がるか全くわからないし、本来あらずじもないと痛感させられる。この夏は、彼の運命を追体験しながら、自分とも向き合ってみてはいかがでしょう。今年もきっと猛暑だろうけど、この物語にはどこかずっと満ちては欠ける月に照らされるような静けさがある。

湯本先生のおすすめは…

289.1-ム 『ハヤト』 村上 早人 || 著 河出書房新社

916-マ 『兵隊先生』 松本 仁一 || 著 新潮社

教科書にはたった一行しか紹介されないような歴史の中にも多くの人たちの人生があります。知識として「知っていること」と誰かの目を通して歴史を眺めることには全く違う意味があると思います。二冊とも現実です。

山崎先生のおすすめは…

772-キ 『一切なりゆき』 樹木 希林 || 著 文藝春秋

「おごらず、他人と比べず、面白がって、平気で生きればよい」という言葉から、悟りを開いた尼さんのような生き方だと感じました。心穏やかにじっくりと染み渡る本です。

鈴木司書のおすすめは…

943-ス 『アルプスのハイジ』 スピリ || 著 角川書店

宮崎駿や高畑勲が制作したアニメ『アルプスの少女ハイジ』を見たことがありますか。とても面白いアニメです。その原作が、先日NHKの「100分de名著」で取り上げられていて、興味がわいたので読んでみました。そもそも原題は『ハイジの修行時代と遍歴時代』及び『ハイジは習ったことを使うことができる』という、アニメで見た山羊と戯れ走り回るハイジからは想像もできないほど、真面目です。しかも、美しくも厳しい自然に囲まれたアルプスの山でのおじいさんとの暮らしから連れ出され、建物に囲まれたフランクフルトの街中の大きなお屋敷での生活で元気をなくし病気になったハイジが、アルプスに戻り回復するという表面的な話だけでなく、それぞれが苦難に満ちた経験をしながら学んだことは、きっと意味のあることだと思えるようになる、生きる勇気を与えてくれる話だったのです。ぜひ、この夏休みの前半に読んでみて、ハイジのような心持ちでこの夏を過ごしてみたいです。

今井司書のおすすめは…

913.6-マ 『点と線』 松本 清張 || 著 新潮社

平成が幕を閉じ、令和の時代が始まりました。令和元年の夏、私は時代をさかのぼって昭和の名ミステリーをみなさんにおすすめします。とある事件の容疑者として浮上したひとりの男。事件を追う刑事があの手この手で、アリバイを崩しにかかりますが、調べれば調べるほど、アリバイが強固になってしまいます。この容疑者と刑事の攻防戦が見どころです。そして、もう1つの見どころは、現代では味わえない“時代感”です。この本が出版されたのは昭和46年。連絡手段には電報が使われ、電車の時刻を調べるのは分厚い時刻表、そんな昭和の感じが逆に新鮮でおもしろいし、古さを感じさせません。時代の変化を楽しみながら読んでみてほしいです。

